



戸山流居合抜刀道連盟

平成29年4月作成版



戸山流

組太刀の形

戸山流居合抜刀道連盟



組太刀の形 一本目

1 想定

相方とも帯刀の姿勢から互いに間合いを詰めて、打太刀が抜き打ちに仕太刀の胴を斬ってくるのに対して、仕太刀は後退して間合いを外しながら抜刀し、諸手上段から打太刀の左袈裟を斬り、切先を打太刀の喉元に付けて残心を示す。

2 所作

【打太刀】	【仕太刀】
① 右足から二歩進みながら抜刀の態勢となり、三歩目を踏み出しながら水平抜き打ちに仕太刀の胴を斬り付ける。 (抜き打ちを仕太刀に後退して躲され、左袈裟を斬られる。)	① 打太刀が出て来るのに合わせて、右足から二歩進みながら抜刀の態勢を取り、三歩目を踏み出す瞬間に打太刀が水平抜き打ちに斬ってくるのに対し、上方に抜刀しながら左足から一步後退して間合いを外し、諸手上段に振り被りながら右足を一步踏み込み打太刀の左袈裟(首の付根で寸止めする)を斬る。
② 仕太刀が切先を喉元に付けてきたら、切先を下げ殺気のないことを示す。	② 寸止めした切先をゆっくり打太刀の喉元に移動させて残心を示す。
③ 左足から小さく三歩下がりながら、相中段(切先約 10 cm 交差させる)の構えとなる。	③ 打太刀が殺気を消して下がるのに合わせて、左足から小さく三歩下がりながら、相中段の構えとなる。
④ 中段の構えから、血振り、納刀し、左足から概ね小さく五歩後退して元の位置に戻る。	④ 中段の構えから、血振り、納刀し、左足から概ね小さく五歩後退して元の位置に戻る。

3 留意点

- ☆ ①③④は打太刀の動きに仕太刀が合わせて動くこと。
- ☆ ①の時、打太刀が斬り付ける前に仕太刀が先に後退しないこと。
- ☆ ②の時、打太刀は切先を仕太刀の体側線から外す。
- ☆ ③の時、相中段になるよう歩幅を合わせること。

相中段の切先は、交差と高さが同一となるように合わせること。(以下同じ)



組太刀の形 二本目

1 想定

打太刀、仕太刀の相方が中段の構えから互いに間合いを詰めて、打太刀が右上段に振り被って打ち込もうとするところを、仕太刀は中段の構えから胸部を刺突した後、左上段に構え残心を示す。

2 所作

【打太刀】	【仕太刀】
① 基本の姿勢から、右足を半歩踏み出しながら、抜刀して、中段の構えとなる。	① 基本の姿勢から、打太刀が抜刀するのに合わせ、右足を半歩踏み出しながら抜刀して、中段の構えとなる。
② 右足から二歩進み、間合いに入るや三步目を踏み出しながら右上段に振り被り、仕太刀を真っ向から斬らんとする。 (振り被るところを仕太刀に胸部を刺突される。)	② 打太刀が出て来るのに合わせて、右足から二歩進み、間合いに入るや打太刀が右上段に振り被る瞬間を捉え、三步目で右足を踏み込み打太刀の胸部を諸手で刺突し(胸部に寸止めする)、左足から一步後退して引き抜く。
③ 仕太刀が左上段にならんとするとき、刀を下段におろしながら左足から三步後退する。	③ 左足を半歩踏み出しながら左上段に構え、残心を示す。
④ 仕太刀が左上段の構えで残心を示したら、殺気を消し、一呼吸置いて右足から三步進みながら切先を上げて相中段(切先約 10 cm交差させる)の構えとなる。	④ 打太刀が殺気を消して前に出ながら相中段になるのに合わせて、左足を引きながら、相中段の構えとなる。
⑤ 互いに刀を下段に下げながら刀をやや右に開き、左足から概ね五歩後退し、元の位置に戻り中段に構える。	⑤ 互いに刀を下段に下げながら刀をやや右に寝かし、左足から概ね五歩後退し元の位置に戻り中段に構える。

3 留意点

- ☆ ②の時、仕太刀は打太刀の切先が上がるのに合わせるように刺突する。
- ☆ ③の時、打太刀は下段に降ろした刀をやや右に開き、切先を仕太刀の体側線から外し殺気を消す。
- ☆ ④の時、打太刀は中段になろうとする仕太刀の切先に合わせるように三步進む。
- ☆ ⑤の時、お互いに下段に降ろした刀の切先をお互いの体側線から外す。



組太刀の形 三本目

1 想定

打太刀、仕太刀の相方が中段の構えから互いに間合いを詰めて、打太刀が諸手中段から仕太刀の胸部を刺突するのに対し、仕太刀は右に体捌きをしながら右上段となり、打太刀の左袈裟を斬り、その切先を打太刀の喉元に付け残心を示す。

2 所作

【打太刀】	【仕太刀】
① 中段の構えで右足から二歩進み、間合いに入るや、三歩目の右足を踏み込み仕太刀の胸部を諸手で刺突する。（刺突を躲され、左袈裟を斬られる）	① 中段の構えで、打太刀が出て来るのに合わせて、右足から二歩進み、三歩目を出す瞬間に、打太刀が胸部を刺突して来る刀を擦り上げるようにして右に一步体捌きしながら上段に振り被り、打太刀の左袈裟（首の付根で寸止めする）を斬る。
② 仕太刀が切先を喉元に付けてきたら、切先を下げ殺気のないことを示す。	② 寸止めした切先をゆっくり打太刀の喉元に移動させて残心を示す。
③ 左足から小さく三歩下がりながら、相中段（切先約 10 cm交差させる）の構えとなる。	③ 打太刀が殺気を消して下がるのに合わせて、左足から左に小さく三歩移動しながら、相中段の構えとなる。
④ 互いに刀を下段に下げながら刀をやや右に開き、左足から概ね五歩後退し、元の位置に戻り中段に構える。	④ 互いに刀を下段に下げながら刀をやや右に開き、左足から概ね五歩後退し、元の位置に戻り中段に構える。

3 留意点

- ☆ ①の時、仕太刀は打太刀が刺突するのを見切って体捌きしないこと。
①の時、仕太刀は打太刀の刀を擦り上げるようにしながら体捌きするが、刀を接触させないこと。
- ☆ ③の時、仕太刀は相中段になる打太刀に合わせて左移動すること。
- ☆ ④の時、お互いに下段に降ろした刀の切先をお互いの体側線から外す。



組太刀の形 四本目

1 想定

打太刀が左上段に構えるのに対し、仕太刀は平中段（平正眼）の構えとなり、互いに間合いを詰めて、打太刀が真っ向に切り下げるところを仕太刀は右に体捌きしながら、打太刀を抜き胴に斬った後、中段に構え残心を示す。

2 所作

【打太刀】	【仕太刀】
① 中段の構えから、左足を前に出しながら左上段の構えとなる。	① 中段の構えから、打太刀が左上段に構えるのに、合わせて平中段の構えとなる。
② 右足から二歩進み間合いに入るや、三步目で右足を踏み込みながら真っ向に斬り下ろす。（真っ向斬りを躲かれ、胴を斬られる。）	② 打太刀が出て来るのに合わせ、右足から二歩進み、三步目を出すところで打太刀が真っ向に斬り下ろして来るのを、右に体捌きしながら素早く左から右へ水平に抜き胴を斬る。
③ 仕太刀が中段に構え残心を示したら。切先を下げ殺気のないことを示す。	③ 素早く体勢を打太刀に向き直しながら中段に構え残心を示す。
④ 左足から小さく三步下がりながら、相中段（切先約 10 cm 交差させる）の構えとなる。	④ 打太刀が殺気を消して下がるのに合わせて、左足から左に小さく三步移動しながら、相中段の構えとなる。
⑤ 互いに刀を下段に下げながら刀をやや右に開き、左足から概ね五歩後退し、元の位置に戻り中段に構える。	⑤ 互いに刀を下段に下げながら刀をやや右に開き、左足から概ね五歩後退し、元の位置に戻り中段に構える。

3 留意点

- ☆ ①の時、仕太刀の平中段の剣線は、打太刀の上段に構えた左拳に向ける。
- ☆ ②の時、仕太刀は打太刀が切り込むのを見切って体捌きをしないこと。
- ☆ ④の時、仕太刀は相中段になる打太刀に合わせて左移動すること。
- ☆ ⑤の時、お互いに下段に降ろした刀の切先をお互いの体側線から外す。



組太刀の形 五本目

1 想定

打太刀が右八相に構えるのに対し、仕太刀は中段のままで、互いに間合いを詰めて打太刀が仕太刀の左袈裟に切り込んでくるのを、仕太刀は後退して間合いを外しながら、上段となり、左足を踏み込み打太刀の右袈裟を斬り、切先を打太刀の喉元に付け、残心を示す。

2 所作

【打太刀】	【仕太刀】
① 中段の構えから、左足を前に出しながら右八相の構えとなる。	① 打太刀が右八相の構えるのに対し、中段の構えで対応する。
② 右足から二歩進み、間合いに入るや三步目を踏み込みながら仕太刀の左袈裟を斬り掛かる。(左袈裟斬りを外され、右袈裟を斬られる。)	② 打太刀が出て来るのに合わせ、右足から二歩進み、三步目を出すところで打太刀が左袈裟を斬ってくるのに対し、左足から一歩下がり間合いを外しながら上段に構え、左足を踏み込み打太刀の右袈裟(首の付根で寸止めする)を斬る。
③ 仕太刀が切先を喉元に付けてきたら、切先を下げ殺気のないことを示す。	③ 寸止めした切先をゆっくり打太刀の喉元に移動させて残心を示す。
④ 左足から小さく三步下がりながら、相中段(切先約 10 cm 交差させる)の構えとなる。	④ 打太刀が殺気を消して下がるのに合わせて、左足から小さく三步下がりながら、相中段の構えとなる。
⑤ 互いに刀を下段に下げながら刀をやや右に開き、左足から概ね五歩後退し、元の位置に戻り中段に構える。	⑤ 互いに刀を下段に下げながら刀をやや右に開き、左足から概ね五歩後退し、元の位置に戻り中段に構える。

3 留意点

- ☆ ②の時、仕太刀は打太刀が切り込むのを見切って体捌きをしないこと。
- ☆ ②の時、仕太刀は左足から下がり、一旦両足を揃えるようにしながら上段に構えた後、左足を踏み込む。
- ☆ ③の時、打太刀は下げた切先を仕太刀の体側線から外すこと。
- ☆ ④の時、仕太刀は相中段になる打太刀に合わせて下がること。
- ☆ ⑤の時、お互いに下段に降ろした刀の切先をお互いの体側線から外す。



組太刀の形 六本目

1 想定

打太刀が右上段に構えるのに対し、仕太刀は平中段（平正眼）の構えとなり、互いに間合いを詰めて、打太刀が真っ向に切り下げるところを仕太刀は右に体捌きをしながら、右上段となり打太刀の左袈裟を斬り、切先を打太刀の喉元に付けた後、左上段に構え残心を示す。

2 所作

【打太刀】	【仕太刀】
① 中段の構えから、振り被って右上段の構えとなる。	① 中段の構えから、打太刀が右上段に構えるのに合わせて平中段の構えとなる。
② 右足から二歩進み間合いに入るや、三步目で右足を踏み込みながら真っ向に斬り下ろす。（真っ向斬りを躲かれ、左袈裟を斬られる。）	② 打太刀が出て来るのに合わせ、右足から二歩進み、三步目を出すところで打太刀が真っ向に斬り下ろして来るのを、右に一步体捌きしながら刀を擦り上げるようになりながら上段に振り被り、打太刀の左袈裟（首の付根で寸止めする）を斬る。
③ 仕太刀に切先を喉元に付けられた後、左上段の構えになり始めたら、切先を下げながら、左足から三步後退して殺気のないことを示す。	③ 寸止めした切先をゆっくりと打太刀の喉元に移動させた後、切先で打太刀の顎をゆっくりと押すようにしながら左足を一步踏み出し左上段となって残心を示す。
④ 一呼吸置いて右足から三步進みながら切先を上げて相中段（切先約 10 cm 交差させる）の構えとなる	④ 打太刀が殺気を消して進んでくるのに合わせて、左足から左に小さく三步移動しながら、相中段の構えとなる。
⑤ 互いに刀を下段に下げながら刀をやや右に開き、左足から概ね五歩後退し、元の位置に戻り中段に構えた後、血振り、納刀する。	⑤ 互いに刀を下段に下げながら刀をやや右に開き、左足から概ね五歩後退し、元の位置に戻り中段に構えた後、血振り、納刀する。

3 留意点

- ☆ ①の時、仕太刀の平中段の剣線は、打太刀の上段に構えた左拳に向ける。
- ☆ ②の時、仕太刀は打太刀が切り込むのを見切って体捌きをしないこと。
- ☆ ③の時、打太刀は右後方約 45 度の方行に速やかに下がり、下げた切先を仕太刀の体側線から外すこと。



● 平成 29 年 2 月 4 日の改正点

- 1 相中段の構えの際、相互の切先約 10 cm で交差させ、高さが同一となるように合わせる。